



広報 つるおかの 医療相談



庄内病院の医師が
疑問を解決！

○問合せ 庄内病院総務課 ☎26 - 5111

皮膚科

皮膚がんなのでは
ないかと心配です

なかなか治らないできものがあり、皮膚がんではないかと心配です。皮膚がんの特徴や種類を教えてください。

皮膚のできものには、良性と悪性の腫瘍があります。その内悪性である皮膚悪性腫瘍がいわゆる皮膚がんです。皮膚がんには、皮膚で最初に発生した皮膚がん、ほかの臓器がんから転移した転移性皮膚がんがあります。

そのほか、ほくろのがんの悪性黒色腫や、汗を出す汗腺由来の汗腺がん、脂腺からの脂腺がんなどの皮膚がんがあります。診断には、病変の一部または全部を切り取って調べる検査が必要です。顕微鏡で調べる病理検査を行い、皮膚がんかどうか診断します。

庄内病院の皮膚科

当科では、かかりつけ医と連携して専門的な検査や治療を行っています。皮膚に関する心配事は、まず、皮膚科専門の開業医を受診することをお勧めします。

当院皮膚科の受診が必要な際は、当院の地域医療連携室を経由して予約をお取りしています。



皮膚科医師
吉田 幸恵

皮膚がんの中で最も多いのは、基底細胞がんです。基底細胞がんは、皮膚の表面に当たる表皮の基底細胞や、毛包を構成する細胞から発生し、黒っぽいものが典型的です。転移はごくまれですが、放置すると骨まで破壊します。高齢の方の顔面に発生することが多いですが、ほかの部位や30歳代くらいの若い方にも見られます。

次に多いのが有棘細胞がん（ゆうせきせんぼうがん）で、やけどの痕や日光角化症などに続けて発症することがあります。転移の有無が生命予後に関係します。腫瘍が大きかったり、免疫が低下していたりする場合、転移の頻度は高くなります。

歯科口腔外科

骨粗しょう症の薬
を服用中でも、歯
の治療はできる？

70代女性です。骨粗しょう症の薬を服用していますが、薬の副作用で歯の治療が難しくなると聞きました。詳しく教えてください。

骨粗しょう症は骨がもろくなり、骨折しやすくなる病気です。主な要因として、加齢や運動不足、女性ホルモンの減少などがあり、多くは閉経後の女性に発症します。治療には、骨吸収を抑える薬（骨吸収抑制薬）が使用される場合が多いです。

貼り、医科・歯科・薬局が連携する取り組みを開始しています。これからは、骨粗しょう症の治療とともに、継続して歯科治療も行いましょう。

庄内病院の歯科口腔外科

この薬の使用経験がある患者さんで、虫歯や歯周病による炎症を放置していると、顎の骨の細胞が死滅し腐った状態（顎骨壊死）が発生することがあります。そうになると、歯茎の腫れや痛み、うみの排出、骨の露出などが生じ、その後の歯科治療は困難となり、口腔外科での治療が必要となります。

特に口腔がんはまれな疾患ですが、発見が遅れ進行した場合治療が難しくなります。その際、当科では大学病院やがん専門病院などと連携して診療しています。



歯科口腔外科医師
武石 越郎

予防するには、薬が開始される前の歯科検診と治療、開始された後の歯磨きなどのセルフケア、歯石除去などの定期的な予防歯科治療が重要となります。昨年からは鶴岡地区歯科医師会と協力して、「骨吸収抑制薬剤使用中」のシールをお薬手帳に